Innovation in Motion
TSUBAKI

商品紹介　8頁
独創の軌跡　7頁
財務諸表　9頁
営業のご報告　5頁
企業・株式データ　13頁
トップメッセージ　1頁

第97期中間事業ご報告

株主通信

2006年4月1日～2006年9月30日

Vol.2

株式会社 椿本チエイン

証券コード:6371

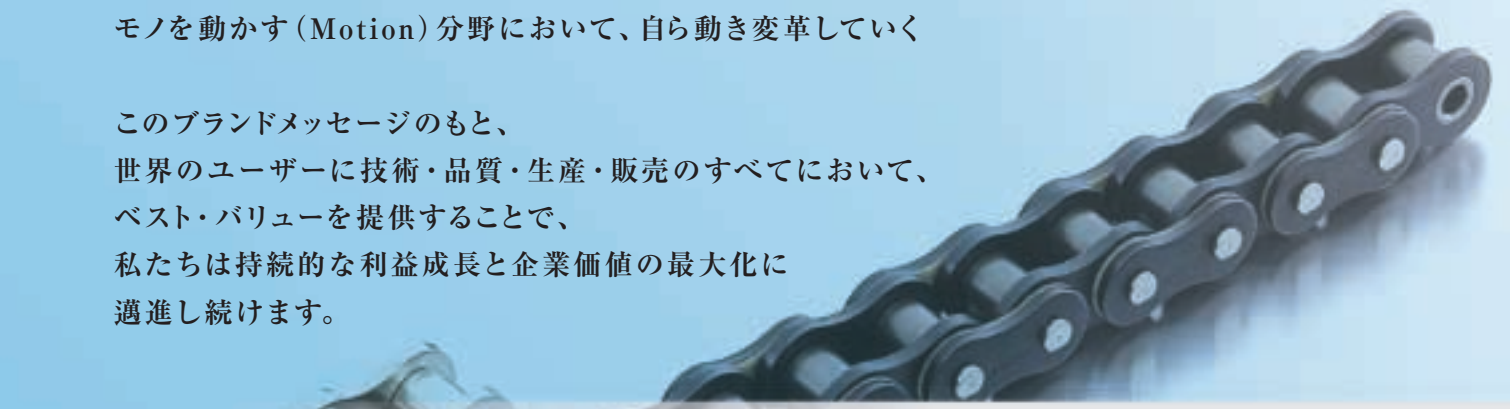
Innovation in Motion

世界のオンリーワン企業へ

私たちつばきグループは、各種産業用機械部品・装置、
自動車エンジン駆動部品のトップメーカーです。
私たちは「パワートランスミッション」と「マテリアルハンドリング」の技術力を駆使して、
世界の顧客にベスト・バリューを提供します。

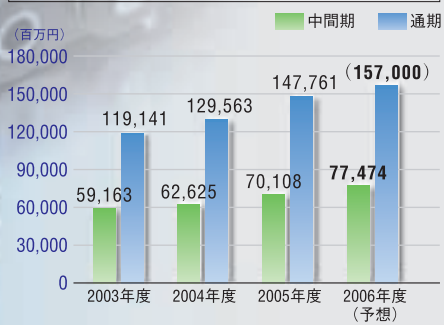
Innovation in Motion ——
モノを動かす（Motion）分野において、自ら動き変革していく

このブランドメッセージのもと、
世界のユーザーに技術・品質・生産・販売のすべてにおいて、
ベスト・バリューを提供することで、
私たちは持続的な利益成長と企業価値の最大化に
邁進し続けます。

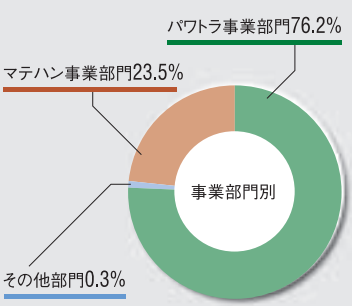


財務ハイライト（連結）

売　上　高



売　上　構　成　比



「グローバルな事業展開」「グループ経営力の強化」「グロース路線の拡大」3Gを柱に、グローバル・ベスト戦略のさらなる推進を図る

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

私たちつばきグループが目指す中長期的なゴールは、国内マーケットから大きく視点を広げ、世界を舞台に私たちのベスト・バリューを提供する「グローバル・ベスト」体制を確立することにあります。グローバル・ベストとは、各事業部門とグループ各社がいっそう密な連携を図りながら、事業基盤の拡充と業績の向上に取り組むもので、世界各地それぞれの地域ニーズに応じた商品を開発・生産・販売することで、好業績を実現していきます。

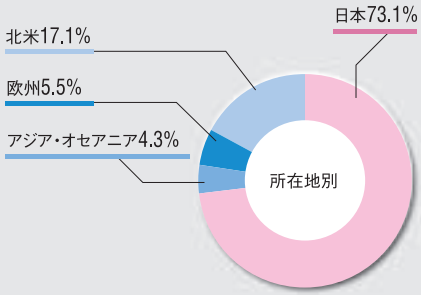
「グローバル・ベスト」は、シェアの拡大を闇雲に掲げるものではありません。それは世界に挑戦できる実力を着実に整えてきたかどうかが問われるものであり、その先を見据えた地道な行動こそが重要であるといえます。私たちつばきグループは、これまで「攻めの経営」に耐えられる強固な財務基盤・収益体質を構築し、品質・技術開発・生産体制などにおける差別化を実現してきました。また、ガバナンスやコンプライアンスなどの経営管理面においても世界の一流を目指しています。

これからも、「グローバルな事業展開」「グループ経営力の強化」「グロース路線の拡大」という「3G」を合言葉に、「グローバル・ベスト戦略」のさらなる推進を図っていきます。

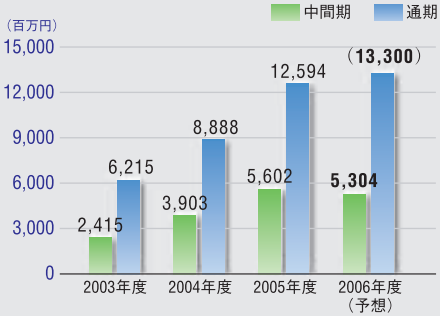
今後ともよりいっそうのご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長
美本　龍彦

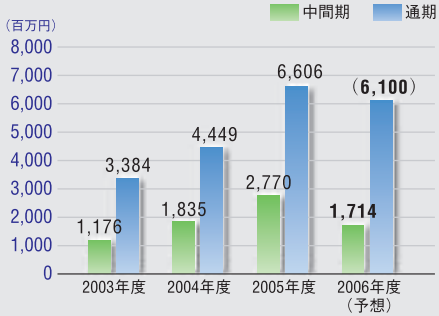
（当中間期）



経常利益



中間（当期）純利益



チェーン事業

品質の差別化の推進とグローバル生産体制の再構築を図ることで収益性を向上させます。

シンプルな構造のチェーンは、一見、ロー・テク商品と思われがちですが、実際には、「材料技術」や「熱処理技術」など高度な技術と経験を要する機械要素です。私たちのスチールチェーンにおける強固な顧客基盤は、伝動能力（強度・耐久性）、耐摩耗性（寿命・精度）などの差別化された品質に支えられてきました。あらゆるチェーンのベースとなる「RSローラチェーン」においては、10年ごとにモデルチェンジを行い、他社との差別化を図ってきましたが、その一環として、本年6月にニューモデルの「G7」の発売を開始、品質の差別化をさらに拡大しました。

また、生産拠点の中心となる京田辺工場は、チェーン工場としては類のない世界最新鋭の自動化設備を導入、2004年よりセル生産方式を導入し、生産性の向上を進めてきました。今後はコンベヤチェーン、無給油ラムダチェーンを中心に、世界最適地生産・最適地供給体制の構築に向けた「生産体制の見直し」を行い、収益性を向上させていきます。

スチールチェーン市場における現在の私たちの世界シェアは21％※ですが、2015年度までに30%※を達成すべく、シェア拡大に取り組んでいきます。

New RSローラチェーン「G7」

自動車部品事業

世界5極生産体制のいっそうの強化と新事業領域の早期立ち上げを図ります。

私たちの強みは、強度・静粛性・軽量性などの品質・技術面はもちろん、タイミングチェーンのみならず、スプロケット、テンショナを含むタイミングドライブシステム一式をシステム納入できるという「総合力」、カーメーカーと一体となって行う新製品開発力にあります。また、競争力向上と貿易摩擦問題の回避などの目的で、カーメーカーの生産・開発・部品調達面におけるグローバル展開が加速化している中、私たちが日本・北米・欧州・東南アジア・中国の世界5極の生産拠点を有することは、最適地生産・最適地供給体制を実現している点で大きな強みとなっています。欧州において、グループ会社の椿本ヨーロッパを核に、ドイツのIWIS社とアライアンス契約を締結するなど（2001年8月）、グローバル供給体制を強化してきましたが、今後もさらに強化し、海外の主要カーメーカーへの顧客基盤の拡大も推進、目標である2007年度までの世界シェア30%※の達成を目指します。

また私たちは、自動車部品領域での新ビジネスの早期育成に積極的に取り組んでいます。パワートレイン系や補機駆動系用のチェーンを中心に、タイミングドライブシステムに並ぶ商品を目指し、注力しています。

タイミングチェーンドライブシステム

精機事業

輸出比率10%の達成と新商品比率の向上（15%）を目指します。

減速機、直線作動機（電動シリンダ）、クラッチなど豊富な品揃えにより、産業用機械・設備のモーション＆コントロールの分野で、多彩な顧客ニーズに幅広く応えられる「総合力」を有していることが、精機事業の特長のひとつです。また、電動シリンダ、カムクラッチにおいては、国内シェアがそれぞれ50%※、80%※と圧倒的な業界プレゼンスを誇っています。

商品群は多岐にわたりますが、販売戦略としては商品の枠に縛られることなく展開、例えば減速機においては、IT・工作機械・鉄鋼といった業界別に特化するなどして、重点分野に注力しています。

海外市場については、輸出比率10%以上を目標に、中国市場を中心に製造・販売拠点の整備など、積極的に推進しています。

また、さらなる「総合力」の向上を目指し、新商品比率15%を目標に、新商品開発力を高め、商品ラインナップを充実していきます。

減速機商品群

マテハン事業

コアビジネスを中心とした安定顧客基盤の再構築と、採算性を特に重視した成長を目指します。

特殊な仕様要求にも対応できるシステム開発能力と提案型の営業力において、私たちは優位性を持っており、自動車塗装ライン（国内シェア約30～40%※）、新聞巻取紙搬送システム（同約80%※）、流通業界向け仕分けシステム、粉粒体搬送コンベヤ、工作機械業界向け金属切り屑搬送コンベヤなどの納入実績が豊富です。

特に、自動車塗装ライン搬送システムを最も得意とし、シンプルかつローコストでメンテナンス性に優れた商品を提供しており、国内自動車工場だけでなく、北米、欧州、中国、インド、韓国、東南アジアの海外自動車工場でも多くの設備が稼働しています。

他方、安定した顧客基盤の再構築として、私たちは、カーメーカーと並ぶ従来のコアビジネスである流通業界、新聞業界向けのコア商品の充実やグローバル展開を強化するとともに、成長分野である創薬業界等に対し、豊富な経験に基づくエンジニアリング力をもって、顧客開拓を積極的に進めていきます。

本中間期は、北米での大口案件において、大きな損失を計上しました。今後は、大口案件における日米の役割の見直し等を行い、収益性を大きく変動させる要因についての管理をいっそう徹底していきます。また、中・小規模の改造工事や、メンテナンス・部品取換工事などのアフタービジネスに注力し、売上の安定を図るとともに更なる成長につなげていきます。

新聞巻取紙搬送システム

※文中の「シェア」については、当社推定値です。

業績の概況

売上は好調、利益は苦戦。

当中間期における世界経済は、米国では成長が鈍化しましたが、欧州が高成長に転じ、アジアでは高成長を持続するなど、総じて良好に推移しました。一方、わが国経済は、設備投資の増加や個人消費の増加などにより、景気の拡大が続きました。

当社グループを取り巻く市場環境は、国内では自動車業界、工作機械業界などが好調を維持し、海外では総じて堅調に推移しました。

このような状況のもと、当社グループは、「グローバル・ベスト戦略」を積極的に展開し、受注の拡大に努めました。

これらの結果、当中間期の連結売上高は774億74百万円(前年同期比10.5%増)となりました。

利益につきましては、マテハン事業において、北米の案件で大きな損失を計上したことなどから、営業利益は56億95百万円(同6.8%減)、経常利益は53億4百万円(同5.3%減)となり、また中間純利益は17億14百万円(同38.1%減)となりました。

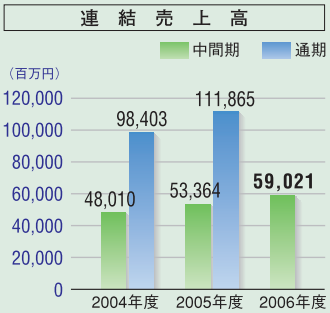
なお、当中間期の配当金は、利益配分に関する基本方針に基づき、2006年11月15日開催の取締役会において決定し、前中間期と同じく1株当たり3円といたします。

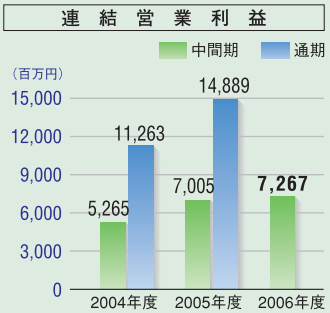
事業部門別の概況

■ パワトラ事業部門 (パワートランスミッション)

売上・利益ともに堅調

「チェーン事業」は、ドライブチェーンや大形コンベヤチェーン、ケーブルベヤなどが好調で、自動車、鉄鋼、工作機械などの業界向けを中心に、堅調に推移しました。

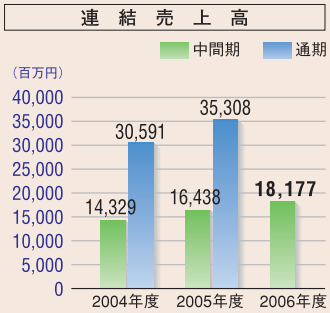


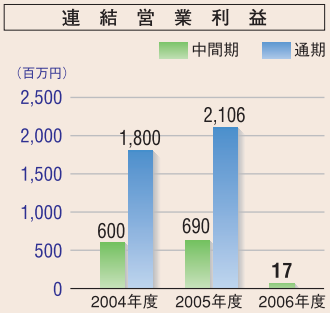


■ マテハン事業部門 (マテリアルハンドリング)

北米事業で損失計上

塗装ラインを中心とした自動車業界向け搬送設備のほか、国内外IT関連業界向け搬送設備や工作機械業界向けコン





チェーン事業／自動車部品事業／精機事業

「自動車部品事業」は、タイミングチェーンドライブシステムが好調で、国内カーメーカー向けの納入が堅調に推移し、また、海外各拠点での販売が大幅に伸長しました。

「精機事業」は、電動シリンダ、摩擦式締結具、カップリングなどが好調で、工作機械、射出成型機、IT、自動車、造船などの業界向けを中心に、堅調を維持しました。

以上の結果、パワトラ事業部門の受注高は594億80百万円（前年同期比9.5%増）、売上高は590億21百万円（同10.6%増）、営業利益は72億67百万円（同3.7%増）となりました。

タイミングチェーンドライブシステム

マハテン事業

ベヤなどが好調に推移しました。しかし、北米における自動車業界向け塗装ライン搬送システムの設置工事において多額の追加工事費用等が発生し、大きな損失を計上しました。

以上により、マテハン事業部門の受注高は146億92百万円（前年同期比33.1%減）、売上高は181億77百万円（同10.6%増）、営業利益は17百万円（同97.4%減）となりました。

自動車塗装ライン搬送システム

通期の業績見通し

「グローバル・ベスト戦略」のもと、拡大成長路線をより確実なものに。

わが国および世界経済は引き続き拡大基調にあると思われますが、原油価格の高騰や米国景気の減速などの懸念すべき要因もあり、予断を許さない状況が続くものと予想されます。

このような状況のもと、当社グループは、当社グループの全体最適と、各事業と各グループ会社の企業価値の最大化を追求する「グローバル・ベスト戦略」のもと、今年度は拡大成長路線をより確実なものにするため、引き続き顧客密着型の営業を推し進めるとともに、最適地販売、最適地生産、最適地調達によりグループ全体の拡大を目指してまいります。

また、有利子負債の削減等、財務体質の強化にも努めてまいる所存です。

以上により、2007年3月期の業績見通しは次のとおり予定しています。

連　結

売上高	1,570億円	（前期比　6.3%増）
経常利益	133億円	（前期比　5.6%増）
当期純利益	61億円	（前期比　7.7%減）

（注）上記見通しは、当社が現時点で入手可能な情報に基づいた判断および予測に基づいた見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、今後当社の事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、為替の変動などにより、これら業績見通しと異なる場合があり得ますことをご承知おきください。ただし、業績に影響を与え得る要素はこれらに限定されるものではありません。

1962

【昭和37年】

90年にわたるつばきグループの歴史を振り返り、
そこに息づく独自のフロンティア・スピリットを綴る、
「独創の軌跡」シリーズ第4弾。
今回は、当社が全国区企業へと名乗りを上げる契機となった、
埼玉工場設立にまつわるエピソードをご紹介します。

埼玉工場の第一期工事で完成した
コンベヤ工場

新天地へ

「日本のつばき」への第一歩

関東における需要に応えるため埼玉工場を設立

関東での初めての工場となった、埼玉工場が完成したのが1962年（昭和37年）。当時は、昭和30年以降増加の一途をたどってきたコンベヤ需要に対応するため、新工場の設立が課題となっていました。この時、本社工場（大阪市）の拡張は地価の高騰で難しくなっていたことや、コンベヤ生産の約60%を関東のユーザーが占めるようになっていたことから、関東地域での工場設立を決定。まだ武蔵野の面影を残し、秩父連山を見渡すことができる景勝の地、埼玉県飯能市に白羽の矢が立ちました。

主として自動車産業向けの搬送設備と、鉄鋼業界向けの搬送設備の製造を目的としたコンベヤ工場では、完成直後から好調な滑り出しを見せ、昭和37年度のコンベヤ事業部門の月産は120台を上回り、同年の製品売上高は過去最高となりました。

一方の自動車部品工場では、自動車エンジン用のタイミングチェーンを製造。昭和40年代からのモータリゼーションの波に乗り、増産に増産を重ね昭和49年には月産70万本と驚異的な伸びを続けました。埼玉工場はタイミングチェーン大躍進の跳躍台となり、単一品種としては画期的な大量生産工場となりました。

埼玉工場では、現在も自動車部品とマテハン商品の生産拠点として、世界市場に向けて高品質・高付加価値な商品の供給を続けています。同工場の設立は、大阪の町工場から船出した椿本チエインが、名実ともに日本の企業に成長したという、当社の歴史の大きなターニングポイントとなりました。

従業員数約800人、敷地面積179.647㎡を誇る
埼玉工場の現在の姿

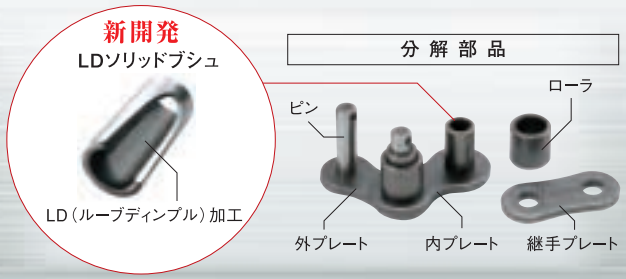
耐摩耗寿命、伝動能力が大幅にアップ!

つばき NewRS® ローラチェーン「G7」誕生

椿本チエインでは、動力伝動用チェーンの基幹商品であるRSローラチェーンをモデルチェンジし、大幅に性能を向上させた「G7」を新発売しました。

当社のRSローラチェーンは1953年のJIS適合以来、常に最高品質を追求して、10年ごとにモデルチェンジを重ねてきました。今回は7回目のモデルチェンジとなることから、「G7(Generation7:第7世代の意味)」とネーミング。当社の材料・熱処理・加工技術等を駆使して開発した「G7」は、世界最高水準の伝動能力を持つ現行の80形RSローラチェーンをベースに、さらに大きく性能を向上させることに成功しています。

伝統のものづくり技術と、最新のテクノロジーを高度に融合させることで完成したRSローラチェーン「G7」。「サイズダウン選定」と「耐摩耗寿命の向上」というメリットの同時達成を可能にし、「よりコンパクトに、長寿命に」というユーザーのニーズにお応えします。



特長1
耐摩耗寿命が2倍に

チェーンの構成部材である、ピンとブシュ間に給油された潤滑油を長期保持する特殊ルーブディンプル(LD)加工の効果を向上。また、ブシュから継ぎ目をなくし、潤滑油の漏れを防ぐ新開発の「LDソリッドブシュ」により、従来からの長寿命がさらに2倍に延びました。(特許出願中)

特長2
伝動能力が約33%アップ

高度なものづくり技術と品質管理を徹底することにより、チェーンの伝動能力を従来比で約33%アップ。サイズダウン選定(1サイズ小さい選定)が可能になるケースもあり、ユーザーのトータルコストダウンに貢献します。

特長3
取扱性の向上、環境への配慮

プレートへの刻印はTSUBAKIのブランド名とRSのチェーンサイズを併記。さらに梱包箱にはチェーンの写真を印刷しているため、交換時におけるチェーンの識別が容易です。また梱包箱には再生紙や大豆インキを採用し、環境への配慮を行っています。

■ 中間連結貸借対照表

単位：百万円

科　目	当中間期末 2006年9月30日現在	前　期　末 2006年3月31日現在
（資産の部）		
流動資産	**81,826**	**78,856**
現金及び預金	9,140	9,867
受取手形及び売掛金	44,004	39,975
たな卸資産	23,393	23,874
その他	5,286	5,138
固定資産	**120,559**	**119,601**
有形固定資産	79,771	76,263
無形固定資産	1,446	1,536
投資その他の資産	39,342	41,802
資産合計	**202,386**	**198,458**
（負債の部）		
流動負債	**59,291**	**56,337**
支払手形及び買掛金	29,009	25,444
短期借入金	10,071	7,413
一年以内に返済予定の長期借入金	3,362	7,055
一年以内に償還予定の社債	960	900
その他	15,887	15,524
固定負債	**62,488**	**60,917**
社債	7,120	7,100
長期借入金	18,536	16,498
長期未払金	4,497	5,484
繰延税金負債	14,180	14,148
退職給付引当金	10,271	9,915
その他	7,883	7,771
負債合計	**121,780**	**117,255**
（純資産の部）		
株主資本	**73,318**	**72,824**
資本金	17,076	17,076
資本剰余金	12,655	12,654
利益剰余金	45,015	44,508
自己株式	△1,428	△1,414
評価・換算差額等	**2,549**	**4,273**
その他有価証券評価差額金	14,839	16,748
繰延ヘッジ損益	△2	—
土地再評価差額金	△12,047	△12,047
為替換算調整勘定	△240	△427
少数株主持分	**4,737**	**4,104**
純資産合計	**80,606**	**81,202**
負債及び純資産合計	**202,386**	**198,458**

（注）前期末については、「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」を適用した連結貸借対照表に組み換えています。

■ 中間連結貸借対照表について

当中間期末の総資産は、前期末と比較して39億28百万円増加いたしました。

これは、当中間期末が金融機関の休業日であったため、期末日が満期日の受取手形および決済日の支払手形・買掛金が決済されていないことによる増加が47億68百万円含まれているためであります。

なお、休日の影響を除いた場合の当中間期末の総資産は、1,976億円18百万円となり、前期末と比較して8億39百万円の減少となりました。これは新規連結子会社ツバキ山久チエインの資産受入および設備投資による有形固定資産の増加がありましたが、一方で保有株式に対する評価差額の減少およびマテハン事業部門大口案件のたな卸資産が減少したことなどによるものです。

■ 中間連結損益計算書について

売上は、国内市場においては、自動車業界、工作機械業界などが引き続き好調を維持し、海外市場においては、原油価格の高騰や米国景気の動向などの不安材料はあったものの、総じて堅調に推移したことにより73億65百万円増加いたしました。

経常利益、中間純利益は、パワトラ事業において、売上高の伸長により営業利益が増加となったものの、マテハン事業において、連結子会社であるTSUBAKI　CONVEYOR　OF　AMERICA, INC.の、自動車業界向け塗装ライン搬送システムの設置工事に関する多額の追加工事費用等が発生したことなどから減益となりました。

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 中間連結損益計算書

単位：百万円

科　目	当中間期 2006年4月 1日から 2006年9月30日まで	前中間期 2005年4月 1日から 2005年9月30日まで
売上高	**77,474**	**70,108**
売上原価	57,827	50,998
売上総利益	**19,646**	**19,110**
販売費及び一般管理費	13,950	13,000
営業利益	**5,695**	**6,109**
営業外収益	751	620
営業外費用	1,143	1,127
経常利益	**5,304**	**5,602**
特別利益	10	471
特別損失	30	518
税金等調整前中間純利益	**5,283**	**5,554**
法人税、住民税及び事業税	2,318	2,293
法人税等調整額	1,079	193
少数株主利益	170	297
中間純利益	**1,714**	**2,770**

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科　目	当中間期 2006年4月 1日から 2006年9月30日まで	前中間期 2005年4月 1日から 2005年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,571	1,077
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,229	△2,101
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,999	△1,055
現金及び現金同等物に係る換算差額	13	108
現金及び現金同等物の減少額	△643	△1,971
現金及び現金同等物の期首残高	10,984	11,562
現金及び現金同等物の中間期末残高	10,340	9,591

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書について

営業活動による資金の増加は45億71百万円となりました。これは、税金等調整前中間純利益が52億83百万円であったことに加え、減価償却費が28億18百万円ありましたが、一方で法人税等の支払36億65百万円を行ったことによるものです。

投資活動による資金の減少は32億29百万円となりました。これは、主に自動車部品生産設備等の設備投資に35億44百万円を支出したことによるものであります。

財務活動による資金の減少は19億99百万円となりました。これは、長期借入金の返済、記念配当2円増配した配当金の支払によるものです。

■ 中間連結株主資本等変動計算書

2006年4月1日から2006年9月30日まで

単位：百万円

	株主資本					評価・換算差額等					少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
2006年3月31日残高	17,076	12,654	44,508	△1,414	72,824	16,748	—	△12,047	△427	4,273	4,104	81,202
当中間期中の変動額												
剰余金の配当			△1,125		△1,125					—		△1,125
役員賞与			△82		△82					—		△82
中間純利益			1,714		1,714					—		1,714
自己株式の取得				△14	△14					—		△14
自己株式の処分		1		1	2					—		2
株主資本以外の項目の当中間期中の変動額（純額）					—	△1,909	△2	—	187	△1,723	632	△1,090
当中間期中の変動額合計	—	1	506	△13	493	△1,909	△2	—	187	△1,723	632	△596
2006年9月30日残高	17,076	12,655	45,015	△1,428	73,318	14,839	△2	△12,047	△240	2,549	4,737	80,606

■ 中間貸借対照表

単位：百万円

科　目	当中間期末 2006年9月30日現在	前　期　末 2006年3月31日現在
（資産の部）		
流動資産	**48,298**	**47,020**
現金及び預金	7,016	8,487
受取手形	5,777	5,098
売掛金	21,924	19,551
たな卸資産	8,071	10,089
その他	5,510	3,793
固定資産	**104,819**	**106,655**
有形固定資産	58,155	57,384
無形固定資産	1,038	1,102
投資その他の資産	45,624	48,168
資産合計	**153,118**	**153,676**
（負債の部）		
流動負債	**41,476**	**41,620**
支払手形	3,204	2,797
買掛金	18,140	16,578
短期借入金	7,983	6,283
一年以内に返済予定の長期借入金	2,936	6,993
その他	9,212	8,967
固定負債	**51,024**	**49,909**
社債	7,000	7,000
長期借入金	14,320	12,547
長期未払金	3,384	4,115
繰延税金負債	11,434	12,561
退職給付引当金	6,421	6,301
債務保証損失引当金	1,100	—
その他	7,363	7,384
負債合計	**92,500**	**91,529**
（純資産の部）		
株主資本	**57,907**	**57,512**
資本金	17,076	17,076
資本剰余金	12,673	12,672
利益剰余金	29,586	29,178
自己株式	△1,428	△1,414
評価・換算差額等	**2,709**	**4,635**
その他有価証券評価差額金	14,759	16,682
繰延ヘッジ損益	△2	—
土地再評価差額金	△12,047	△12,047
純資産合計	**60,617**	**62,147**
負債及び純資産合計	**153,118**	**153,676**

■ 中間損益計算書

単位：百万円

科　目	当中間期 2006年4月 1日から 2006年9月30日まで	前中間期 2005年4月 1日から 2005年9月30日まで
売上高	**44,833**	**39,818**
売上原価	35,635	31,624
売上総利益	**9,198**	**8,193**
販売費及び一般管理費	6,291	5,674
営業利益	**2,906**	**2,519**
営業外収益	2,090	1,803
営業外費用	744	832
経常利益	**4,252**	**3,490**
特別利益	—	55
特別損失	1,277	146
税引前中間純利益	**2,975**	**3,400**
法人税、住民税及び事業税	1,189	1,075
法人税等調整額	252	213
中間純利益	**1,533**	**2,111**
前期繰越利益	—	2,071
土地再評価差額金取崩額	—	41
中間未処分利益	**—**	**4,224**

（注）前期末については、「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」を適用した貸借対照表に組み換えています。

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 中間株主資本等変動計算書

2006年4月1日から2006年9月30日まで

単位：百万円

	株主資本					評価・換算差額等				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
2006年3月31日残高	17,076	12,672	29,178	△1,414	57,512	16,682	—	△12,047	4,635	62,147
当中間期中の変動額										
剰余金の配当			△1,125		△1,125				—	△1,125
中間純利益			1,533		1,533				—	1,533
自己株式の取得				△14	△14				—	△14
自己株式の処分		1		1	2				—	2
株主資本以外の項目の当中間期中の変動額（純額）					—	△1,922	△2	—	△1,925	△1,925
当中間期中の変動額合計	—	1	408	△13	395	△1,922	△2	—	△1,925	△1,529
2006年9月30日残高	17,076	12,673	29,586	△1,428	57,907	14,759	△2	△12,047	2,709	60,617

企業・株式データ （2006年9月30日現在）

会社概要

商号	株式会社　椿本チエイン
本店所在地	大阪市北区中之島3丁目3番3号
設立年月日	1941年（昭和16年）1月31日
資本金	17,076,679,589円
工場	京田辺・埼玉・京都・兵庫
支社	東京・名古屋・大阪
営業所	仙台・大宮・横浜・静岡・豊田 北陸・広島・九州
つばきグループ	国内11社・海外14社 （連結子会社23社・持分法適用関連会社2社）

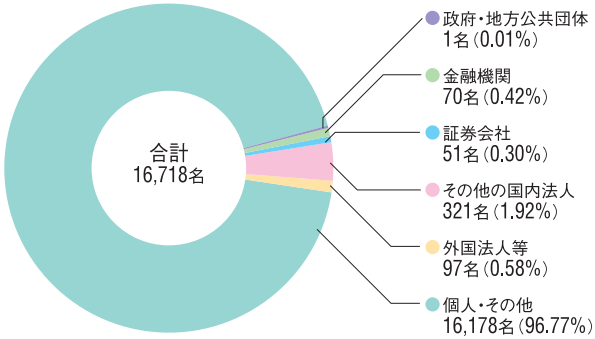
役員

代表取締役	取締役会長	福永　喬
代表取締役	取締役社長	美本　龍彦
取締役	専務執行役員	金平　誠
取締役	常務執行役員	市川　直
取締役	常務執行役員	藤原　透
取締役	常務執行役員	三木　信彦
取締役	執行役員	長　勇
取締役	執行役員	宮本　民男
取締役		矢嶋　英敏（※1）
常勤監査役		横山　眞道
常勤監査役		小松　達雄
監査役		徳田　勝（※2）
監査役		渡邊　隆文（※2）
常務執行役員		宮崎　英夫
常務執行役員		宮﨑　良信
常務執行役員		森清　晟
常務執行役員		鈴木　恭
常務執行役員		近藤　正人
執行役員		柳ケ瀬　浩
執行役員		椿本　茂也
執行役員		北山　佳計
執行役員		馬場　二郎
執行役員		酒井　俊光
執行役員		高橋　利夫

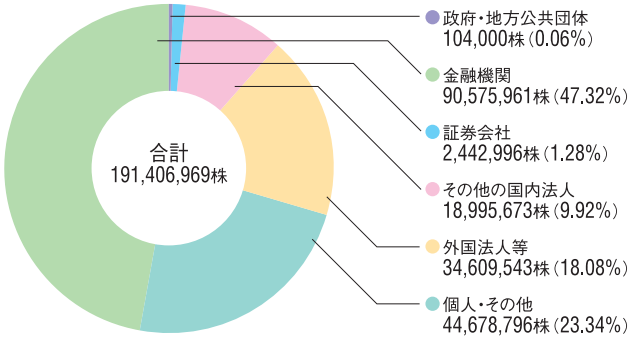
（注）1. 取締役のうち矢嶋英敏氏は社外取締役であります。（※1）
2. 監査役のうち徳田勝氏および渡邊隆文氏は社外監査役であります。（※2）

株式分布状況

所有者別株式分布状況



所有数別株式分布状況



つばき WEB SITEのご案内

つばきグループの基本情報から最新情報まで幅広く掲載。
株主様との情報コミュニケーション窓口として、資料請求やお問い合わせにも対応しています。

http://www.tsubakimoto.jp/

株式の状況

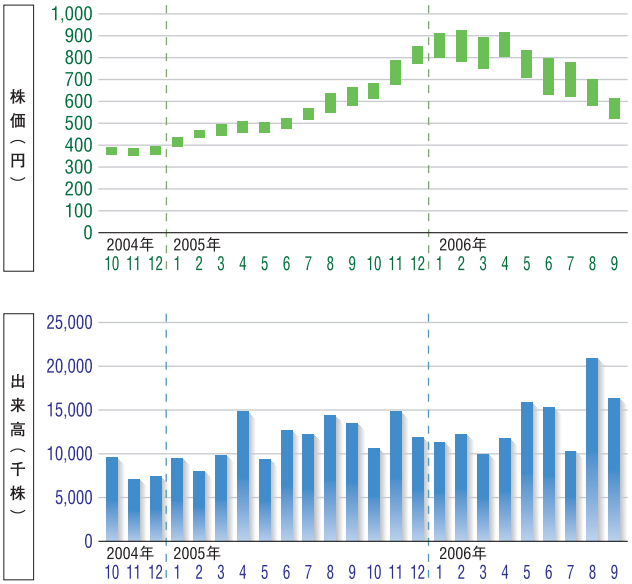
発行可能株式総数	299,000,000株
発行済株式の総数	191,406,969株
株主数	16,718名

大株主 （上位10名）

株主名	持株数	持株比率
太陽生命保険株式会社	16,398千株	8.57%
ベア スターンズ アンド カンパニー	14,602	7.63
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	12,754	6.66
日本生命保険相互会社	12,029	6.28
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	8,070	4.22
トヨタ自動車株式会社	7,722	4.03
株式会社三井住友銀行	6,689	3.50
椿本チエイン持株共栄会	4,418	2.31
中央三井信託銀行株式会社	4,245	2.22
株式会社三菱東京ＵＦＪ銀行	3,563	1.86

（注）1. 株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 当社は自己株式3,884,040株を保有しておりますが、上記大株主には含めておりません。

株価（高値・安値）および出来高の推移



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会　毎年3月31日 期末配当金　毎年3月31日 中間配当金　毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人事務取扱場所	中央三井信託銀行株式会社大阪支店 証券代行部 〒541-0041 大阪市中央区北浜2丁目2番21号 電話　**0120-78-2031**（フリーダイヤル）
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 本店および全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
公告の方法	当社のホームページに記載 （事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載）
単元未満株式の買取および買増	単元未満株式（1株～999株）の買取および買増については、上記の株主名簿管理人事務取扱場所・同取次所でお取扱いいたしております。また、保管振替制度をご利用の場合には、お取引の証券会社等へお問い合わせください。なお、1株当たりの買取および買増価格につきましては、取扱窓口に買取もしくは買増のご請求をいただき、その請求の効力が発生しました日の東京証券取引所の最終価格となります。

株主掲示板 Bulletin Board

本社を移転しました。

本社および大阪支社が所在していた
「大阪富国生命ビル」の建て替えに伴い、
2006年8月7日付で本社・大阪支社を
下記に移転し、業務を開始しました。

＜新所在地＞
〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目3番3号
中之島三井ビルディング6階

2006アニュアルレポートを発行しました。

従来の英語版に加え、今回から新たに日本語版も発行しました。今回より企画内容も一新し、当社グループの強みや成長の背景、課題と克服策などを具体的に開示しています。

当社ホームページ内の
下記アドレスからご覧いただけます。
http://www.tsubakimoto.jp/ir/annual/

「関西ノムラ資産管理フェア2007」に出展いたします。

当社は、個人投資家の皆様に向けたIR活動の一環として、本年2月に引き続き野村證券主催の資産管理フェアに出展いたします。
当フェアは2007年2月16日・17日の2日間、京セラドーム大阪にて開催されます。
ぜひご来場ください。

2006年出展時の当社ブース▶

株式会社 椿本チエイン
http://www.tsubakimoto.jp/

R100 古紙配合率100%再生紙
PRINTED WITH SOY INK